

多核種除去設備（既設ALPS）A系 クロスフローフィルタ二次側絞り弁の滲み事象

2019年11月28日

東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

概要及び時系列

■ 概要

- 2019年11月7日、多核種除去設備（既設ALPS）A系の前処理設備（ステージ2）におけるクロスフローフィルタ二次側絞り弁2箇所（F232、F252）のグランド部に滲みがあり、各々の弁下部の床面に水たまり（10cm×5cm×1mm）2カ所を確認。なお、発見時に既設ALPS（A系）は停止中であった。
- 床面のたまり水は、多核種除去設備建屋の堰内に留まっており、建屋外への流出はない。
- 滲み箇所は当該弁のグランド部からであり、増し締めを実施して滲みの停止を確認した。
- 既設ALPS A系の処理運転再開に合わせ、運転圧による漏えい確認を実施し、滲みがないことを確認した。

漏えい水の分析結果

塩分：0.05% pH：10 スミヤ測定：65,000cpm（BG：400cpm）

（参考）C系10月7日採取：

Cs134： 4.24×10^2 Bq/L Cs137： 5.81×10^3 Bq/L 全 β ： 1.17×10^4 Bq/L

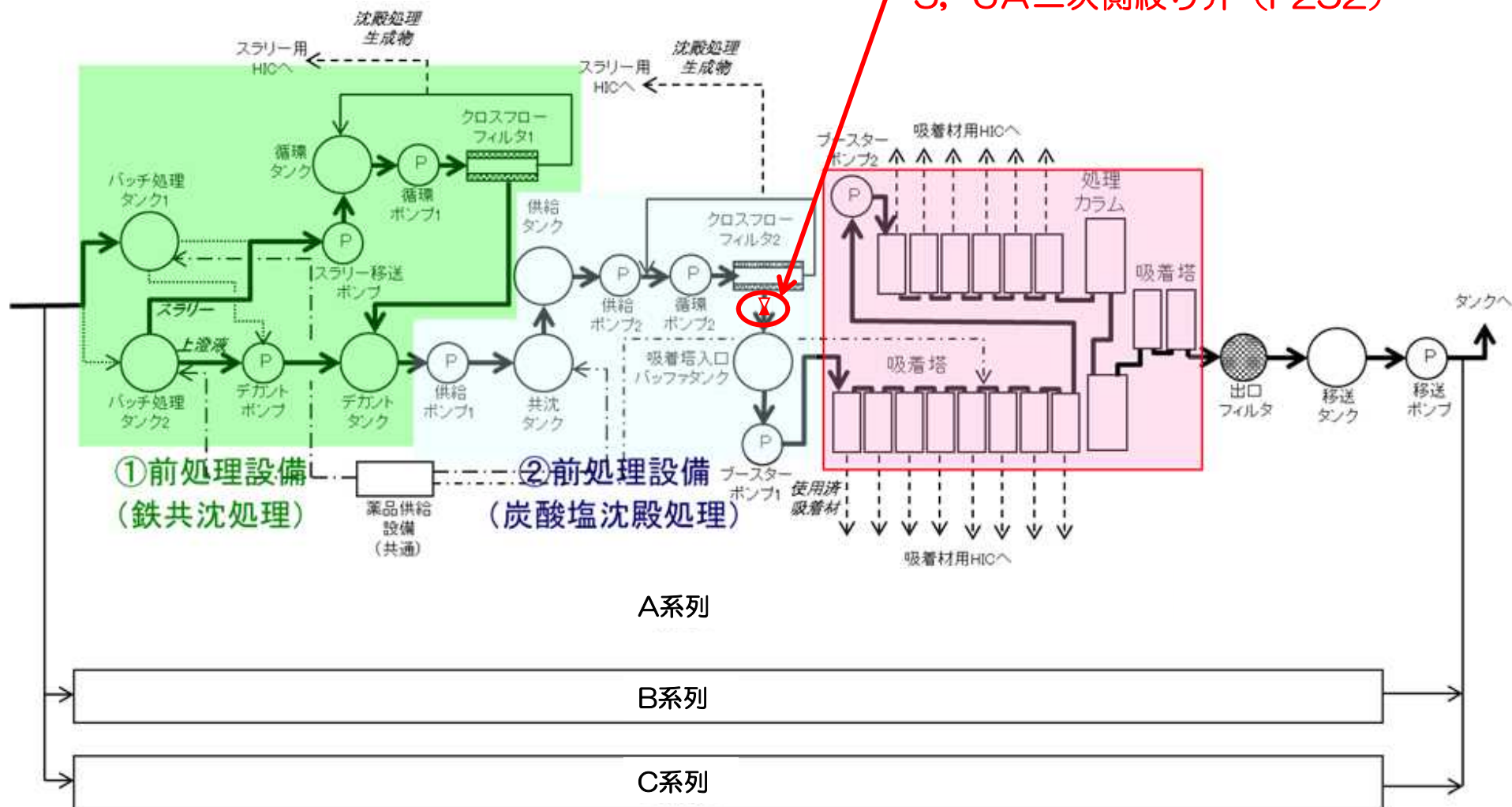
■ 時系列

【11月7日】

- 10：24 既設ALPS A系前処理設備（ステージ2）出口側絞り弁からの滲み、および床面の水たまりを確認
- 11：27 当該弁のグランド部増し締めを実施、滲みの停止を確認
床面の水たまりの拭き取り、および袋養生を実施
- 14：20 処理運転再開

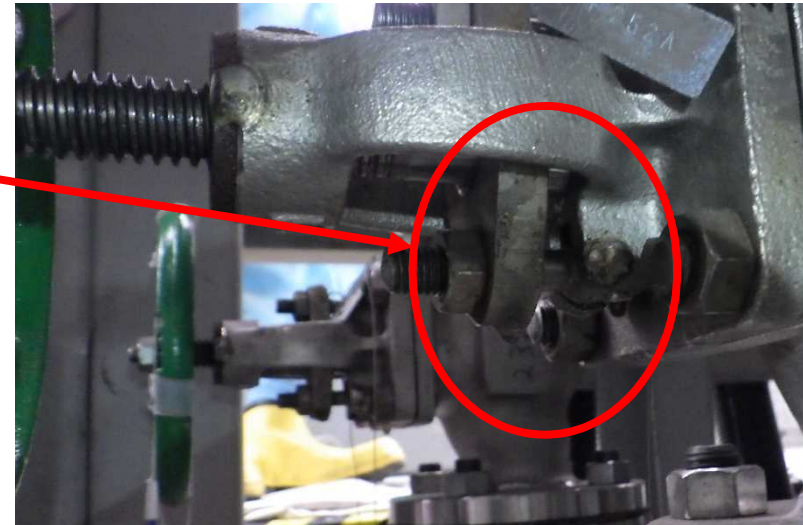
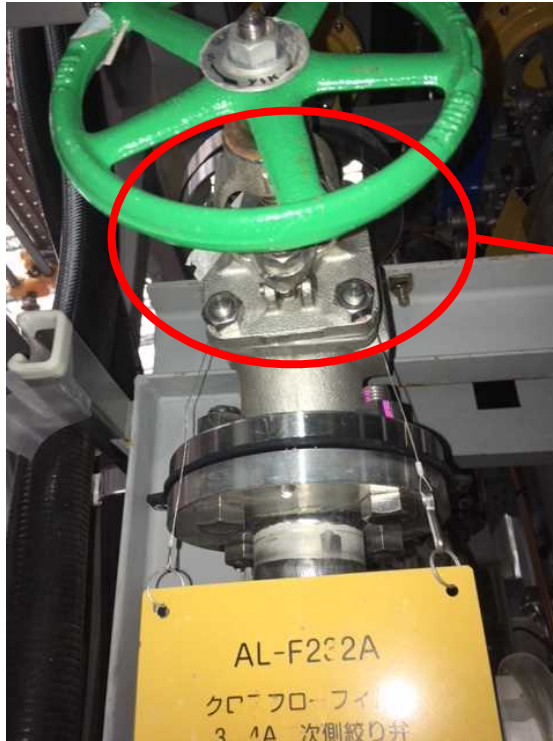
滲み発生箇所

クロスフローフィルタ 3, 4A二次側絞り弁 (F232)
5, 6A二次側絞り弁 (F252)



滲み及び対応の状況

■ 滲みの状況



滲み箇所（弁のグランド部）

■ 推定原因と対応

当該弁は二次側流量調整等を実施することから操作頻度が高いため、グランドの緩みが発生したと考えられる。

グランド部の増し締め実施後滲みが停止していることから、養生を実施して継続監視を行い、必要に応じて増し締めを実施する。